

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥八丁目7番1号		
自己評価作成日	平成27年12月9日	評価結果確定日	平成28年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者の好きなことが出来、やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていく中で、お思いを知り、楽しくて出来ること・楽しくてやりたいことを一緒に過ごす中、毎日に目的があり活き活きと楽しむ事で、笑顔にあふれ充実した毎日をご過ごす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎の社会福祉法人が母体であり、港町と、人の集う場所を目指して「ポート野芥」と名付けられた当施設は野芥の住宅街にある平屋建ての2ユニットグループホームである。母体法人は福岡でも複数個所の介護事業所を運営しており、会議での情報共有や、研修、レクリエーションなどでも相互に協力もなされているほか、スキルアップにも積極的で、外部講師を活用しながら研修に取り組んでいる。27年7月に開設されたばかりだが、当初から地域との関係も良好で地域行事への参加も入居者と一緒に積極的に取り組んでおり、本人の思いを大切にケアを心掛け、入居者の背景にまで思いを巡らせてきめ細かなサービスを提供している。施設のドアを常時開放して近隣からの立ち寄りもしやすいようにしており、今後も地域ケアを支える事業所としての活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念として、私たちは、好きなことが出来・やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていくお手伝いをします。私たちは、思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごしていきます。私たちは、毎日に目的があり、生き活きと楽しむ事で、笑顔のあふれた充実した毎日と一緒に歩みます。を、掲げている。三つの言葉から、各ユニットでスタッフ一人一人で作上げた理念を掲げ日々のケアに取り入れている。	法人理念を元にした、事業所独自の理念が、3つの「お約束」として開設時に作られ、パンフレットにも載せられている。各ユニットごとにも、職員が意見を持ち寄ったフロア理念があり、玄関先に掲げられる。職員も自分たちで作ったことで馴染みを持っており、入居者への思いを大事にしながら、毎月の会議などで笑顔を大事にしたケアの実践へ振り返りを行っている。	今後さらに、入居者や職員が増えていく中で、引き続き定期的に理念を振り返り、見直す機会も設けて、より発展的な理念共有が進められることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に参加している。事業所の入り口にベンチを設置している。入居者並びに近隣の方とのふれあいの場となっている地域行事に参加し地域との交流を図っている。 子供110番に参加、地域の一人として交流を図っている。	自治会も協力的で、もちつきの道具を借りることもあった。入居者との散歩のときに挨拶を交わしたり、年末の夜間パトロールには職員が協力している。自治会長が回覧板を持ってきてくれており、自治活動として餅つきや、グランドゴルフ、運動会、夏祭りなどに入居者と一緒に参加している。事業所の行事にも自治会長を通して案内し、日頃の交流などでも馴染みの関係を作っている。	幼稚園、保育園との交流を打診中で、実現に期待したい。また、地域ボランティアを活用したり、情報収集が図られることも望まれる。将来的には地域への認知症の理解を進めるためにキャラバンメイト活動などに携わってもよいのではないかな。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険サービス並びに、認知症ケアについての相談があり対応している。キャラバンメイトの資格を持った職員がいるので、地域に向け認知症ケアの情報を発信していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、保育園園長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	2ヶ月ごとに開催され、地域からの参加者も多い。万一の離設の際の通報依頼や、災害時の公民館の避難場所の提供などのアドバイスを頂くこともあった。家族は全員に案内しているがまだ参加には至っていない。地域包括の呼びかけでケアマネや他事業所からの参加もあり、意見も活発である。議事録は参加者に報告し、家族へは面会時に話している。	家族参加を増やすために、今後は家族参加も出来るように、日程も固定ではなく、流動的に検討してはどうだろうか。地域との関わりの中でも、相互参加など協力しながら発展的な会議運営がなされていくことにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、保育園園長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	市役所にも毎回運営推進会議の案内をしており、一度参加もあった。12月には県の出前講座を活用して勉強会を企画し、市や地域包括の職員に来てもらって人権や感染症に関する講演をしてもらっており、入居者も一緒に受講した。空き情報も伝えており、地域包括から紹介を頂くこともあった。	
6	(5)	○安全確保 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、法人の勉強会に参加し全体意識の統一をはかっている。入職プログラムや会議においては入居者個別での肉体的ならびに精神的虐待を共通理解できるようにしている。 玄関は、8時半から17時半までは扉を開放し、いつでも入居者は外に出られる環境を整えている。	玄関はセンサーも設置せず、常時開放しており、自由に外出できる。身体、精神含め一切の拘束をしない方針で、虐待につながる行為を未然に防ぐことに努めている。不穏な方も引き止めず見守り、付き添いで対応し、地域や交番にも離設に備えた相談をしている。徘徊リスクの高い方がいた時にはその日の服装を記録に残していた。法人研修に外部講師を招いたり、内部伝達も行い、全般的な拘束行為の理解を進めている。	

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、マニュアルの作成ならびに入職プログラムや勉強会を行っている。法人の勉強会として弁護士など研修に参加し理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の講座などを活用し成年後見人制度の内容や意図、勉強会を行い、理解を深めている。	現在制度利用されている方はいないが、市の出前講座を使って講師に来てもらい、成年後見制度や日常生活自立支援事業についての内部研修を行った。対応が必要な際には外部の関係機関とも協力して対応し、事業所内でも一般的な制度理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書ならびに契約書の読み合わせを行っている。いつでも、不明な点や疑問について説明が出来るように常日頃から心がけている。管理者のみで契約をするのではなく計画作成担当者と一緒に行うことで、内容を理解し説明できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からの意見や要望を、職員会議ならびにカンファレンスなどで話し合いを行っている。入居者家族会の設置を考えている。	毎月の広報誌発行と、個別のお便りを担当者から報告している。現在近隣からの入居者も多く、ほぼすべての家族が月1回以上は面会に訪れる。入居者の要望で女性同士の集まりを希望され、実現も支援した。今まで大きな苦情もなく、こまめな報告は家族にも喜ばれている。	さらに入居者が増えてからのちには、家族同士のつながりや、コミュニケーションを図るために家族会の組織などの検討もなされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の業務の流れは、職員たちで話し合いをし作成している。支障があれば、自分たちで解決し、よりよい職場環境を目指している。ありがとうカードを実施し、日々の業務の中でも互いが認め合える環境作りを行っている。	毎月のフロア会議にはその日の出勤者が全員参加し、欠席者には後から伝達している。職員から業務改善アンケートを不定期でとり、直近の意見からは遅出勤務の時間変更の改善に取り組んだ。日頃から意見も出しやすく、改善にも積極的で、お互いに感謝の気持ちを表す「ありがとうカード」によってコミュニケーションも円滑である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握するように努めている。給与水準や労働時間も含め、一人ひとりが目標をもって、日々のやりがいの持てる環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用面接には、本人の学びが重要だと思ふ。対人援助職として、一人ひとりの気づきが集まりよりよい認知症ケアの為に、性別や年齢等で採用の判断はしていない。	男女の職員がバランスよく配置され、10～60歳代までと年齢層も幅広い。資格取得などには勤務調整を行い、休憩時間や休憩場所も確保されている。研修案内もあり、希望すれば参加も出来る。法人主催の全体忘年会もあり、お互いにコミュニケーションが取れるように配慮されている。職員それぞれも特技を生かして歌や踊り、ハーブティなどを提供している。	

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政の出前講座などの活用や、弁護士などの研修に参加し、人権の尊重ならびに尊厳について学ぶ機会を設けている。	市の人権啓発課に依頼して、人権についての勉強会に出前講座で来てもらった。日頃も尊厳を大事にしたケアを念頭に、高齢者以外の問題も取り上げて、児童、障害など全般的な勉強を進めている。入職時のオリエンテーションではマニュアルを使って伝達を行い、コンプライアンスや虐待防止に関しても内部研修をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にオリエンテーションプログラムを組み認知症ケアについて目標設定をし、理解をすることから始めている。日々の気づきを感じられるように、朝礼で目標を必ず立ててもらい、終礼では良かったことを言ってもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議などを包括支援センターと行い、地域の認知症の人について、生活の質の向上について提案をしている。運営推進会議においても近隣の介護保険事業所に参加頂きネットワーク作りを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメント時に、職員との写真を撮り入居の際にお渡ししている。入居の際が一番不安だと考え、会ったことがある人があるという安心感を作っている。ケアの統一では、本人の思いを根拠に入居前・三日目・一週間・一ヶ月のカンファレンスを実施している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に家族の困っていること不安を聞くことから、具体的なケアの方向性を伝えるようにしている。入居に際しての要望についても、寄り添えるようにし、よりよい関係作りの構築を目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠に、家族の意向を考慮しながら、入居前・三日目・一週間・一ヶ月カンファレンスを行い、幸せな未来の為に、今必要なサービスを話し合いサービス計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の幸せのために、何が出来・何をしたいのかを考えサービス計画作成し認知症ケアを行っている。本人の役割作りの中で、幸せを感じていける事が第一と考えている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書に、日々の写真と、施設便りを同封している。サービス計画においても家族の支援をお願いしている。		

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の玄関扉は8:30~17:30は開放し、外にでれる環境にしている。近所の方から入居者への声かけがあり、社会性が薄れないように支援している。	近隣からの入居者もおおり、家族の面会も多い。県外からの入居者には施設を中心とした馴染みの関係を作ってもらうために、地域を知ってもらい、近隣者とも徐々に関係を構築している。家族の協力で一時帰宅や外泊する方も多く、趣味の習字をしたり、歌が好きな方をカラオケにお連れしたこともあった。積極的に外に出ることで馴染みの人との接点も継続し、個別ケアによる支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の役割を奪わない支援をしている。一人一人の出来ること・したいことを楽しんでいる環境を作ることで、互いを認め合える場面作りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退去された方はいないが、入居者が安心したケアを受けていく為にも、チームでなくてはいけないと考える。だからこそ関係性を大切にし、途切れない支援をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の思い」を根拠にし、日々のケアでも添えるように対応している。本人の思いを、職員が気づけるように、マネジメントしている。	ケアの根拠を知るために本人の思いを大切に、日々の行動や表情を観察して記録に残している。入居前、後のカンファレンスで本人家族とアセスメントを行い、3~6か月での見直しも全職員からの意見を出すことで、様々な観点からの意向の把握に努めている。入居者のノーマルな状態を知るために法人様式の24hシートを作成し、日々の情報から見直しにも生かしており、入居前には本人と担当職員で写真を撮ることでスムーズな入居につながっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握するために、本人・家族に「出来ること・したいこと」を主体に伺い、生活状態、サービス利用につながった経緯などを尋ねている。入居前カンファレンスでもケアの統一の中で、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初は対応する中で、本人の思いを探っていく、入居者の「出来るかもしれないこと・したいかもしれないこと」で、役割を通して過ごしていただくなかで、根拠を見つけ対策を立てるケアを考えている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ること・したいことを根拠に、本人の思いをケアプランに反映させ作成している。なぜそう思っているのか、なぜそうしたいのかを話し合う中で、いろいろな気づきを話し合い、目標達成のために日々のケアに活かし、評価を行っている。	家族から面会時などに意見を聞いてプランに反映させ、毎月のケアカンファの中で入居者の情報を一覧として全体でも共有している。担当職員も決めるが、全体でも話し合い、現場の意見を活かしている。モニタリングは3か月ごとにケアマネが行う。ユニット単位で、プランをファイリングし参照できるようにしており、プランの見直し時も全員で援助目標などを話すことで、プラン周知を進めている。	日々のプラン実施と、記録の紐づけを連動させることで、より全体でのプラン理解を進められることが望まれる。また、担当による月々のモニタリングなども関連させることで、発展的なプラン作成とチームケアの実現にも期待したい。

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使い、入居者のノーマルを知ることにより、入居者の当たり前に気づき、ケアの実践や介護計画において見直しができるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族からの、ニーズに対応できるように、連携施設との情報交換ならびに、運営推進会議において包括支援センターや居宅介護事業者とも相談できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、行事ごとの参加ならびに、近隣保育園に行事ごとの参加をお願いなどしており、楽しんでいくことで豊かな暮らしが提供できるように支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療かかりつけ医による、往診を定期的に行っている。精神科・内科・循環器科・皮膚科の先生と連携を組み、入居者の安心につながるようにしている。	入居時に提携の精神科を紹介し、そこを希望される方も多く、2週に1回の往診を受けている。現在は他科受診はないが、通院の必要があれば事業所からも支援を行う。家族へは面会時の報告や直接医師とやりとりをしてもらい、行き違いのないようにしている。提携医もコミュニケーションがとりやすい方で、職員とのやり取りから症状改善につながったこともあった。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきなどを、かかりつけ医の看護師と相談をし、適切な治療ならびに受診ができるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見・早期治療ができるように、入居者のいつもと違うを気づき、早めの対応を行うようにしている。入院した場合においても、病院関係者に1週間ごとに情報交換をするようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	老いの中で、重度化していくことは当然と考えるからこそ、入居者の幸せを考え事業所としてケアを考えていきたい。現在、ターミナルの実績はないが、ターミナルの同意書を作成し、家族・本人の意向のもと取り組んでいきたい。	事業所としての指針を定め、契約時に説明し、重度化の際に同意を取り交わすようにしているが、今までのところ対象となるようなケースはなかった。提携医は看取りの経験も積んでおり、24時間対応もしている。ターミナルケアの研修は、今後対象者が出てきた際に行う予定である。	

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ならびに事故について、マニュアル作成している。定期的な訓練については勉強会ならび救命救急講習を学んだ職員より伝達研修などを行う。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、避難訓練などを行っている。災害時については自治会長に相談をし、対応について助言をいただいている。	年2回の訓練計画があり、今年度は半年で2回実施し、うち1回は消防署立ち合いで行った。運営推進会議でも話し合い、有事の際に公民館へ避難する旨の提案もいただいた。AEDの設置と、軽微な備蓄物があるが、今後は拡充していく予定である。平屋建てで庭や駐車場も広いため、避難もしやすい環境である。	口頭での協力依頼や、運営推進会議での話し合いも行っているが、今後は地域の方の訓練参加に関しても実現されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを作成している、入職研修ならびに、勉強会において項目を設けている。 入居者の声かけでも、思い込みの返事をするのではなく、本人の思いがわかっているからこそ精神的苦痛を与えないように配慮を行っている。	事業所全体でマニュアルを整備し、閲覧できるようにしている。開設前研修で接遇についても学び、入職時オリエンテーションでは新人に対して指導している。入居者それぞれの思いを大事にしてプライバシーへの配慮も行っている。同性介助も希望あれば対応し、個人情報使用の同意も写真利用を含めて取り交わしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知ることで、何を求めているのかを探っていく。その場限りの対応をするのではなく対策をたて認知症ケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の流れに入居者を合わせるのではなく、入居者、一人ひとりのペースにあったケアが行えるように、本人の思いを優先できるようにしている。 ケアプランの中でも「本人の思い」をニーズとしてとらえている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が希望される理髪店を家族の協力に応じている。起床時の整容にも配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなどの役割を、入居者一人ひとりに持ってもらっている。役割を奪わないように、入居者一人ひとりに合わせ声かけを行い。みんなでチームとなれるよう支援している。	皆が同じものを食べられるよう、塩分量などにも配慮されたメニュー3食とも業者から配食されている。陶器の器とランチョンマットをつかって家庭的な雰囲気を出し、出来る人には配下膳などしてもらっている。おやつ作りを皆でしたり、行事の際には調理レク的にすることもある。職員は普段は持参したものを別の時間にとり、行事の際には一緒に食事している。	

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、管理栄養士による献立を業者から納入している。味が均等ならびに塩分濃度にも配慮するために、湯煎での食事提供を行っている。水分については、目標を設定し、こまめな摂取を心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による歯の健康診断を行い、本人の状態にあったアドバイスを頂いている。歯磨きについては本人が出来る所までやっていたが、磨き残し等は声掛けや手伝いをしてる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を定時誘導するのではなく、24時間シートを使用し、本人の排泄パターンがわかることにより、失敗ならびに失禁が少なくなるように支援している。	自立の方も多いが、全体で1日1枚の排泄チェック表を管理している。入居前に紙おむつを使っていた方がトイレ誘導によって、段階を経てリハパンから布パンツに改善したこともある。失敗のあった時には原因を振り返り、話し合い、改善につなげる。入居者それぞれのサインを読み取って、相手に合わせたアプローチを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士指導による、食材にて食事提供を行いバランスが取れた内容となっている。日頃から入居者の食事量・水分摂取量を把握し、便秘予防につとめている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を14時から16時と設定している。毎日入浴をされる方も居られれば、医師の指示を受け入浴の回数を設定している方も居る。	三方向介助が出来る浴槽と、サイドに移動式のベンチと手すりもあることで安全に移乗が出来る。基本的には時間や回数も決まっているが希望があれば早朝など時間外での対応も行う。個浴で毎回浴槽のお湯も入れ替えており、温度も個別対応している。拒まれた際も時間帯や曜日、担当者を変えて最低週2回以上は入ってもらうようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用し、入居者のサイクルに沿った生活サイクルの組み立てを行っている。入居者のいつもの様子を、職員は把握出来ているので、表情や仕草などで、声かけを行い、休息できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局にて、薬の一包化し安全に服薬できるようにしている。他科受診しても処方せんを施設に持ってきてもらい、薬剤師の薬のチェックを行ってもらい、副作用の少ない状態を考えている。服薬提供表をファイリングし、急変時などでも速やかに医師に報告できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく、根拠から、その方のしたいこと・できることにつなげ、日々を生き生きすることで役割を考えている。		

H27自己・外部評価表(GHポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日散歩を行っている。全員でいくのではなく、入居者と職員や、夫婦のみ、女子入居者同士と、色々な場面を散歩で行っている。 地域からのお誘いで、夏祭り・グランドゴルフ・運動会など、行事ごとにも参加を行っている。	積極的に外出機会を設けており、職員のちょっとした外出にも誘い出して、近隣をドライブしたり、買い物にいたりしている。季節ごとの花見や自治会行事などが年4、5回程度あり、意欲低下した方にも日常の新聞取りなど役割をもってもらって外気に触れる機会を作っている。日常的にも散歩や施設前のベンチで休んでおり、近隣との触れ合いの時間にも役立っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば、お金を持って頂けるようにしている。外出の際や、欲しい物があれば買い物に出かけ、入居者に精算が出来るように支援もしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居契約の際に電話はいつでもかけられる様に家族と相談をしている。手紙についても自由にやりとりが出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。	幅広く高級感のあるライトブラウンのフローリングで、ホールは吹き抜けで天井も高く開放感に溢れる。食事をするホールとテレビを見るスペースを分けることで、それぞれに集中して音が干渉しないようにも配慮されている。高窓や中庭もあるため、日当たりもよく、カウンターキッチンからの見通しも良い。正方形型のこじんまりとしたテーブルが複数あり、日によって自由に配置を変えて気を使わずに過ごせるようにもしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。 中庭には、入居者で植えたプランターがあり、気のあった入居者同士で育てている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使いなれたものを持ってきていただくようにしている。新しい環境だからこそ、今までの自分の物が周りにあることで安心していけるようにしている。	8畳ほどの居室は共通の造りで、介護ベッド、クローゼットが備え付きである。トイレも3か所あり、各部屋から近いところを使うことができる。入り口はスライドドアで開口も広く、車いすの場合でも入りやすい。戸口には職員の手による似顔絵が貼られ、温かみのある雰囲気は一役買っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく根拠から、環境整備を工夫し、その方のしたいこと・できることにつながるように考えている		